

世界的指揮者 小澤征爾氏の「成城大学名誉博士」授与式を挙

成城大学（東京都世田谷区 学長:油井 雄二）は、2016年3月1日に、予めからご案内しておりました通り「成城大学名誉博士」第1号である小澤征爾氏の成城大学名誉博士授与式を成城大学にて挙行いたしました事をご報告いたします。

成城大学名誉博士の称号は、学術文化の発展について特に顕著な貢献があり、本学において顕彰することが適当と認められる方、もしくは本学の教育研究の発展に特に顕著な功績があった方に授与するものです。

小澤征爾氏は、その世界的音楽活動を通して学術文化の発展に多大な貢献をされるとともに、成城学園中学校卒業生で成城学園とも深い関わりをもち、名誉博士の称号を授与するに最もふさわしい人物であり、ここにその功績を称え、成城大学名誉博士を授与いたしました。

当日は、ロンドンで活躍されている成城学園卒業生の伊藤悠貴氏も駆けつけ、同じく卒業生の渡辺信一郎氏、矢部優典氏、総勢10名が「セイジ・オザワ祝典アンサンブル」を結成し、小澤征爾氏の成城大学名誉博士授与式を盛り上げてくださいました。



＜左：小澤征爾氏／右：成城大学学長 油井雄二＞



＜成城の思い出を語る小澤征爾氏＞

【小澤 征爾（おざわ せいじ）氏 略歴】

1935年、中国のシャンヤン（旧奉天）生まれ。幼いころからピアノを学び、成城学園中学校を経て、桐朋学園で齋藤秀雄に指揮を学んだ。

1959年、ブザンソン指揮者コンクールで第1位を獲得。当時ボストン響の音楽監督であり、このコンクールの審査員であったシャルル・ミュンシュに翌夏タングルウッドに招かれた。その後、カラヤン、バーンスタインに師事、ニューヨーク・フィル副指揮者、シカゴ響ラヴィニア・フェスティバル音楽監督、トロント響音楽監督、サンフランシスコ響音楽監督を経て1973年にボストン交響楽団の第13代音楽監督に就任。アメリカのオーケストラ史上でも異例の29年という長期にわたって務め、アメリカ国内はもとより、オーケストラの評価を国際的にも高めた。

これまでに、フランス・レジオン・ドヌール勲章オフィシエ、日本国文化勲章、ケネディ・センター名誉賞をはじめ国内外で多くの賞を受賞。